

補足説明資料 ~ 商品市況、為替、金利の考え方および資本戦略 ~

2006年7月27日
 双日株式会社

I. 商品市況、為替、金利の考え方

(1) 商品市況

	06年3月期 実績	07年3月期計画 前提条件	07年3月期 第1四半期実績	足元の状況
原油 (Brent)	\$55/bbl (バレル)	\$50/bbl	\$63/bbl	\$73/bbl
石炭	\$50/mt * (トン) *一般炭	年間契約できていないものについては、足元の価格の8割程度で計画を策定	・基本的に年間契約であり、SPOT市況の影響は殆ど受けない ・今年度も権益炭の大部分が契約済み	
モリブデン	\$32/lb (ポンド)	\$16/lb	\$24/lb	\$25/lb
バナジウム	\$16/lb (ポンド)	\$5.5/lb	\$8/lb	\$7.6/lb

(2) 為替

・前提条件	07年3月期 ￥110/\$
・収益感応度	為替が1円変動すると、売上高で100億円程度、経常利益で1~2億円の影響 BSに与える影響は、自己資本に対して15億円程度 (いずれも、円高は減少、円安で増加)

(3) 金利

・前提条件	07年3月期 短期金利 0.85% 長期金利 2%程度
・収益感応度	金利が1%上昇すると、年間17~20億円程度の影響を受ける

II. 資本戦略

<p>エクイティ・ファイナンスの実行によって優先株式を一掃し、資本構造再編を一気に行う目的について</p> <p>CB 3,000億円を発行、当社はCBの転換に応じて優先株式の買入を行う</p> <p>当社の資本構造に対する市場の不透明感を払拭する</p>	<p>期間収益の積上げによる株主資本の蓄積をより確実なものとし、リスクに対する強固な財務バランスを確保</p> <p>外部資本調達を行うことによって、優先株式の一括買入交渉が可能となった</p> <p>優先株式配当の回避による普通株式配当の柔軟性の確保</p> <p>キャッシュフローの確保による成長戦略の実現 = 将来収益資産の構築を可能とする</p> <p>転換価額決定済優先株式 (転換価額上限 262円) の普通株式への転換による希薄化を抑制 (CB下限転換価額 341.3円)</p> <p>転換価額未決定優先株式の早期買入による大幅なディスカウントを確保</p>
<p>エクイティ・ファイナンス手法として CB発行を選択した理由について</p>	<p>一連の資本政策に対する理解を深めて戴くためには時間をかけた説明が必要と判断</p> <p>市場の信認を得た転換価額での普通株式への転換</p> <p>新中期経営計画「New Stage 2008」の進捗</p> <p>市場による当社の企業価値判断に合わせた普通株式への転換</p>
<p>一部ディスカウントでの優先株式買入価額合意について</p> <p>優先株式 5,604億円について買入総額を 3,429億円 ~ 最大3,541億円とする買入契約を締結</p>	<p>優先株主に対し、3,000億円規模のエクイティ・ファイナンスの実行を前提とした一括買入提案による買入価額交渉力を確保</p> <p>転換価額未決定の優先株式について、価値評価算定はDCF方式や優先株式の中の劣後性等に重点を置き、早期買入による大幅なディスカウントを確保</p>
<p>CB 3,000億円の転換状況 (7月26日現在)</p>	<p>転換累計金額 : 340億円</p> <p>発行株式数 : 85,279,377株</p>